

## 背景

- ロス&ダメージとは、気候変動の悪影響（気象についての極端な事象及び緩やかに進行する事象を含む。）に伴う損失及び損害を指す。
- 先進国は適応の範囲内での対応と理解。途上国は、ロス&ダメージへの対応のための追加的な資金支援を追求。

## COP25での交渉

- 適応事業はロス&ダメージの対策に資することから、ロス&ダメージへの支援については、既存の枠組みの中で実施することとなった。またUNFCCC内外の既存の関連資金、機関との連携とアクセスを通じて、支援のための機能が強化される方向となっている。
- 公的、民間双方の資金のスケールアップの必要性も記載された。
- 「ワルシャワ国際メカニズム（WIM）」における3つ目の機能「資金を含む活動支援」に係るワークストリーム下に新たに専門家グループを2020年末までに設置することとなった。
- 関連組織、ネットワーク等による技術支援を加速するための「サンティアゴ・ネットワーク」を設置することとなった。

## COP26に向けて

- 追加的な資金支援強化等の途上国からの要求が続き、議論が続く可能性が高い。
- COP26において継続し、COPにサーブするか、が議論。